

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成 24 年 11 月 1 日（木） 午後 7 時～8 時 35 分
会 場 江川分館（東久保一丁目町会）
天 気 晴れ

参加者 22人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆先日亀小の耐震補強が終わった。今度は大規模改造するとのことで、先日、学校に集まって教育委員会と話をした。空き教室が出たときにどういう設備を入れたらいいかという話だった。5年後に空きが出るとのこと。そんな予算があるならトイレを直してほしいという話をした。現実問題として亀小のトイレはすごく汚い。そんな所が避難所になっているのはどうか。1年生がおもらししてもシャワールームもない。おもらしをするということは、トイレが汚いから行けないということ。トイレから直した方がいい。

☆今まではお金をかけていなかった。大規模改造ではトイレをやる。教育委員会の説明が皆さんにうまく伝わらなかったのかもしれないが、せっかく大規模改造をするなら、校舎の一部分を地域の方が使えるような提案があればご意見を聞きたいという趣旨で聞かせている。市内の学校の設備はひどすぎる。大規模改造は私になって始めた。今年と来年は鶴ヶ丘小学校と大井西中学校、来年と再来年は、亀久保小学校と三角小学校、それぞれ2年間かけてやる。先程経常収支比率の話をしたが、平成23年度予算は6億5千万、今までの貯金を取り崩して予算を組んだ。決算では実は取り崩さずにすんだ。さらに3億5千万積み立てた。合併以前はお金をかけてこられなかった。トイレは当然改修する。そのうえで「開かれた学校」と言いながらも名ばかりになっている。法律の悪い所だと思うが、学校は教育財産、行政財産ではない。縦割り行政の最たるもので、学校の敷地内には市民が使う所をつくれな。放課後児童クラブもそう。本当なら学校の敷地内につくりたいが、敷地を同じ市なのに教育委員会から買って建てる。市民の皆さんには知られていないと思うが、国はずっとそんなことをやっている。だから敷地が狭い学校は外に放課後児童クラブをつくることになる。また、就任して各施設まわりをしたのだが、大井西中に訪問したら鉄筋が出ている。信じられない話だが、理由を聞いたら出ているのではない、崩れそうだから崩したとのこと。これが実態。亀小は、現状では教室が足りない状況だが、西原小は入口が別にあるので地域の方が集会所等に使えるようになっている。せっかく大規模改造をするのであればこれを機にやりたいということで地域の皆さんのご意見をお伺いする場をつくったつもりだった。教育委員会の説明が不十分だったようで申し訳なかった。

◆趣旨はそうだろうと思っていたが、我々の場合は江川分館がある。わざわざ学校へ行かなくてもいい。ただし学校応援団の人たちがお茶を飲む場所はないので、学校のどこかにあればという話はあるのではという提案はした。急な話だったため、使い勝手のいい分館があることもあって、要望することもないというのがこの町会の実態。学校でたまにグラウンドゴルフの大会をやらせてもらって目につくのがトイレ。我々も使えるような状態ではない。子どもたちが快適に過ごせるようにしてもらおうのが先だろうということで話が終わった。

☆ご指摘いただいたように、トイレについては、まさにやらせていただいているところ。しかし、大規模災害になると、水道が復旧しない限り、トイレは使えないだろう。このため、仮設トイレを増やしていこうという話になってくる。マンションも停電になればトイレは使えない。トイレが必要な方が相当数出てくると思う。しかしながら、少しでも子どもたちの環境を良くしたいということは私も考えている。

◆亀久保小に井戸を掘ると聞いた。

☆井戸を増やしていこうという計画はあるが、学校に設置してある井戸については、飲料水用はまだない。

◆緑道沿いに住んでいる。強い雨が降ると、畑の雨と緑道の雨が川のようになる。市ではどのように考えているのか。

☆本来、道路の方に流してはいけない。宅地内処理が原則。しかし、形状によっては、大雨が降ると畑から流れ出してしまったりということも有り得るため、ひとつひとつ職員が見回って対策していこうということになっていると思う。

◆校舎のペンキが学校らしくない。

☆大規模改造の中で塗り替える予定。来年と再来年かけて、屋上防水や外壁をやらせてもらう。市内19校、東台小を除いてほとんどが30年以上たっている。人口が急激に増えた時代には学校をつくるだけで精一杯だった。その後経済状況が良くなかったり、医療や介護など福祉の費用がどんどんふくらんでいることもあり、手をかけてこられなかった。しかし、子どもたちが使う所は何とかしてあげたいし、いざという時は避難所として地域の人たちも使う。普段も校庭など皆さんが利用に供している。1校1校やっていくが、18校もある。やっと4校、今後はつらい話だが、2年に1校ずつしかできないと思う。

◆子どもが増えている。人数は今がピークか。

☆今がピーク。若干増えてその後は減るだろう。亀久保小もそうだが、三角小も表から見るとかなり外壁が傷んでいる。開発計画が出ており、今後子どもが増えることが予想される。NTT跡地にマンションが建ったが、なかなか入居しない。若い人たちが引っ越して来ようということで、うちの子はどここの学校に行くのかという話になり、三角小を見てやめる人が多いと聞いた。三角小も来年、再来年かけて大規模改造をやらせてもらう。マンション以外に戸建ての計画もあり、この地域もこれから増えるだろうということで、学校についてはやれる範囲でやらせていただきたい。

◆歩いていると、よその家の塀が道路側にかたむいているのを見かける。直接直してくれとは言えない。

☆本来は、自分の財産は自分で管理してもらうのが基本だが、ご近所から言うと、ゴタゴタになったりして難しい所がある。

◆道が狭いので、いざという時倒れたら通れなくなる。築30年以上たっている家などは、地震で崩れるより火災の方が怖い。また、家内が出かけた時に下水の汚水ますの蓋が出ていて引っかかった。下水道課に伝えてすぐ来てもらった。開けたら蓋をつないでいるチェーンが腐って切れていた。さびが中に入って自然に蓋が浮いてしまったよう。こういうことは総点検してもらわないと。誰かが怪我をしてからでは遅い。足元は少しでも引っかかる。

☆総点検をしていきたいと思うが、本当に申し訳なかった。もしお気づきになった方は市にお声かけいただきたい。すぐに対応させていただく。今、市内に住んでいるOB職員に地守ということで、普段生活していて気付いたことを市に情報として入れてもらっている。給料は出ないが協力してもらっている。ぜひ町会の皆さんも今のような件についてご連絡いただくとありがたい。

◆高齢になるとちょっとした段差も危ない。おそらく1箇所だけではないだろう。蓋を持って逃げる人がいるから、チェーンでつながっているのか。

☆それもあるかもしれないが、逆流で上がらないようにするためだと思う。

◆私と家内は実家が柏崎と長岡。2回とも被害にあった(2004年中越地震・2007年中越沖地震)。兄弟も実家におり、いろいろな話を聞く。先程言われた自助、共助、公助、やはり行政が動くのはかなり時間がたってから。最初、自分の身は自分で守らなくてはならない。食料、トイレ。田舎であればいざとなれば自分の家の庭でもできるが、この辺りはそうはいかない。市としても皆さんに浸透するように啓蒙してほしい。話を聞くと余震が怖くて眠れないらしい。行政は遅くなる。インフラも復旧には時間がかかる。電気、水道、ガス、ガスは何ヶ月もかかる。私自身は、自分の身は自分で守るという考え方が浸透していかないといけないのではないかと思う。

☆食料の話が出たので、皆さんにはぜひ備蓄のお願いをしたい。計画では、3日間のうち、1日分として、埼玉県、もう1日分としてふじみ野市、もう1日分は皆さんのご家庭からと考えている。なくなる前に早めにお米をストックしてもらいたい。循環型の備蓄をしていこうと計画を立てている。防災倉庫にも粉ミルクがあるが、古くなる前に使って常時新しくしている。自治会・町会の皆さんでいろいろな物を少しずつ備蓄をしておけばみんなで出し合っということが出来る。また、大型店とも協定を結んで協力してもらえるようにすすめている。3日間とは言ったが何とか3日以内にと考えている。被害の規模にもよるが、最低3日分凌いでいこうということで計画を立てている。

◆向こう3軒両隣という言葉があったが今は個人情報のため、隣に住んでいる人が分からないという状況。祖母が阪神大震災のとき、家から出てこなかった。ダンスとテレビに挟まっていて、動けなかった。近所の人で祖母がいないとい

うことで助けてもらった。それでなかったら火災に巻き込まれていたかもしれない。個人情報が行き過ぎている。どこまで踏み込んでいいかわからない。

☆個人情報保護法はある面では必要なのだが、そのせいで町会の方々にもお世話になっているが、要援護者対策がなかなか進まないという面もある。ご高齢の方や障がい者の方が自分では逃げられないということで申し出てもらって初めて情報として得られる。市の方でも例えば障がい者手帳をお持ちの方の情報は持っているが、それを地域の方に提供することはできない。役所内でさえ税や福祉の情報は、目的外使用になる。個人情報保護法は私も行き過ぎていると思っている。建て替える消防本部の指令台は、火災の発生した住所を打ち込むと、ディスプレイに住宅地図等の情報が映し出されて、同時に消防署の出動を命令する。その間に自力で逃げられない人の情報も出る。それは皆さんからいただいた情報を入力している。今は法的に壁があるが、命を守るため、先進地ではどうやってこの問題をクリアしたかの研究をしている。

また、タウンミーティングで必ず話していることがあるのだが、災害はいつ発生するかで被害想定が変わってくると言われている。平日なのか、土日なのか、昼間なのか、夜なのか、夏場なのか、冬場なのか。冬場の夕方、北風がかなり強い中、石油ストーブやファンヒーターがついている。夕飯の支度で煮炊きをしている。最近では安全装置がついているが、中にはついていないご家庭もあるだろう。そういう家が火元になって火災が起きたとする。東久保地区もそうだが、市内には木造住宅の密集地帯がいろいろな所にある。想定というのは、悪い状況をイメージしてどうしたらいいか考えていく必要がある。地震が来た。まず火を止める。家からとび出す人もいるだろう。地震が来て外に逃げたのはいいけれど、避難場所である亀久保小はいつせいにみんなが逃げ出す場所ではないということを知っておいていただきたい。駐車場などより身近なところで身を守っていただく。助けてという声が聞こえたら、助けてあげられるかもしれない。余震が来た時に電信柱が倒れてくるかもしれない。パニックになっているだろうが、空き地等身の安全を守れる場所に逃げるのが第一。全ての建物がいきなり崩れるわけではない。阪神大震災、新潟中越地震は揺れで倒壊した。東日本大震災は津波。これはそれぞれの地震の揺れの周期が違ったことによるもの。とにかく地震が起きてすぐに亀久保小に向かって逃げるのではないということをご理解いただきたい。12月2日の訓練は8時30分にサイレンが鳴る。この日は、ボリュームはMAXで鳴らす。それが鳴ったらシェイクアウト訓練といって、みんなで揺れを想定してもらって、テーブルの下だとか。頭を抱えてもらおうとか、身の安全を確保してもらおう。それから身近な場所で一次避難してもらって、亀久保小に移動していただく。そのときに壁や電信柱などここが危ないということ想定しながら移動していただきたい。移動した後は自衛隊の職員も各避難所に来るので、町会長さんや役員の方の指示でなるべく実践に即した形で訓練を行っていただきたい。

今日は1時間半しかないが、自分で助けられない場合は、避難所に行って伝達

するとか。いざというとき、こうやって助け合うということを町会でも繰り返し話し合ってもらいたい。

◆去年、火事が起きた。昼間行ってボンボン燃えている。民生委員は分かるかもしれないが、消防署の人に誰がいるか聞かれても分からない。誰かがおばあさんがいたという人がいたが、実は1ヶ月前くらいに亡くなっていなかった。せめていざという時に自分のまわりの人くらい分かればと思う。

☆東久保一丁目町会の加入率は69%くらい。比較的市内でも高い方。30%台の所もある。少しでも加入してもらって、みんながいざという時助け合えるようにしていきたい。市でも今までは、転入手続の時に地域の自治組織に加入しなければいけないのかと聞かれて、任意だと答えていたが、今は地域を守っていくためにもぜひ入ってくださいと答えるように変えさせた。また連合会の方とも協力して封筒にも入れたりして加入を呼びかけている。時代が変わってメリットはあるのかと聞かれるようになった。そんな親御さんも学校や保育園など自分のことが関係すると変わる。それが卒園、卒業するとどうでもよくなる。その感覚が時代の流れなのかとも思うが、やはり自分も保育園で学校でお世話になったのだから協力しようというのが人のあたたかさ。それを繰り返していくから子どもたちもそれを見て育つし、そういう人たちが行動していけばまわりの人たちも変わっていくだろうと思う。